

LNG産消会議2020 各機関からのメッセージ①



- ダニエル・ヤーギン氏 (Vice Chairman, IHS markit)
 - 経済的、地政学的な危機の中で、LNGが世界を結びつける。
 - クリーンで安定的なエネルギーの実現のため、今まで以上に売り手と買い手の結束が求められる。
 - LNG産消会議では気候変動や脱炭素化について適切に議論されている。石炭からLNGへの移行で、多量の温室効果ガス(GHG)が削減できるが、各社はCCS、水素燃料等更にその先を見据えている。
- フレデリック・バーナウド氏 (Group CEO, Pavilion Energy)
 - CO2削減を目指した長期購入契約の推進で、市場活性化だけでなく天然ガスの求心力を上昇させる。
- 前田 匡史氏 (国際協力銀行 (JBIC) 総裁)
 - LNGは脱炭素化に向けた移行期間における重要なエネルギー源である。
 - JBICはアジアにおけるLNGバリューチェーンの構築を支援し続ける。
- 黒田 篤郎氏 (日本貿易保険 (NEXI) 代表取締役社長)
 - アジアのエネルギー需要が高まる中でLNGは重要なエネルギー源であり続ける。
 - NEXIはアジアの需給を反映した価格指標を使った取引を積極的に支援する。
- 細野 哲弘氏 (石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) 理事長)
 - JOGMECはLNG供給源の多様化と市場の透明性・安全性の確保、アジア市場の拡大に注力。
 - CCSに特化したグループを新設するなど、本邦企業の脱炭素化支援も積極的に推進していく。

LNG産消会議2020 各機関からのメッセージ②



• パトリック・パンネ氏 (Chairman and CEO, Total SE)

- **再エネ発電の不安定性を補完できる柔軟性を持つ天然ガスは、再エネの完璧なパートナーだ。**
- Totalは世界2位のLNGプレイヤーとして**LNGの安定供給と価格競争力、低炭素化を同時に実現する。**

• 小野田 聡氏 (JERA 代表取締役社長)

- アジアLNG市場の活性化のためには、**仕向地制限の撤廃やアジア独自の価格指標の導入等が不可欠。**
- 脱炭素化は人類のコミットメント。**LNGは再エネを補完し電力の安定供給を維持ため重要であるが、LNGのバリューチェーンにおける脱炭素化も売り手・買い手が一体となり推進していかなければならない。**

• 内田 高史氏 (東京ガス 代表取締役社長)

- **天然ガスと再エネを組み合わせることが未来の脱炭素社会の最も現実的なソリューション**である。
- 東京ガスは国内外の再エネ資産を活用し、水素燃料やメタネーションの導入も進めていく。

• 西澤 淳氏 (三菱商事 天然ガスグループCEO)

- **アジアの経済成長には安価かつ安定的なエネルギー供給が不可欠であり、LNGはその鍵**となる。
- **エネルギー転換を進める上では現実的なアプローチ**が必要であり、**石炭・石油から天然ガスへの即時転換**がその第一ステップとなる。

• 泉澤 清次氏 (三菱重工業 取締役社長)

- MHIは**LNG需要が高まる中で、GTCCやCCSなどCO2削減に資するソリューションを提供**していく。
- 近年ではオランダで天然ガス炊き発電所を水素炊きに転換するプロジェクトにも参画している。

LNG産消会議2020 各機関からのメッセージ③



• 三毛 兼承氏（三菱UFJ銀行 取締役頭取執行役員）

- 再エネだけではエネルギー需要を充足できず、転換期において天然ガスは引き続き重要と認識。
- **環境面・社会面への責任をもって、ファイナンスでLNG業界を支援していく。**
- 安定的な価格指標はLNGプロジェクトをよりバンクブルなものにする。

• 高島 誠氏（三井住友銀行 頭取 CEO）

- 石炭・石油に替わるエネルギー源としてLNGの重要性は増していく。
- **途上国におけるLNG関連のインフラ整備や技術革新により、脱炭素化は急速に進むだろう。**
- 気候変動対応を支援する金融機関として、**融資の引き上げでなく技術革新に向けた顧客との結び付きを重視する。**

• 藤原 弘治氏（みずほ銀行 取締役頭取）

- 脱炭素化とエネルギー安定供給の両面を見れば、LNGは重要な供給源となっていく。
- みずほ銀行は**脱炭素化に向けたエネルギーの安定供給をサポートしていく。**

• Fatema Al Nuaimi氏（CEO, ADNOC LNG）

- **安定的で安価でクリーンなエネルギー源**として、LNGは重要な役割を果たし続けていく。
- **持続可能性の議論なしにLNGの未来は語れない。**戦略的パートナーシップの締結や環境技術向上への投資により、持続可能性を優先させ、責任を果たしていく。

• Nefoussi Djilali氏（Process Head of Department, SONATRACH）

- SONATRACHは**生産プラントの安定性を強化するため、設備刷新等の投資を積極的に進めていく。**

LNG産消会議2020 各機関からのメッセージ④



• キース・ピット氏（オーストラリア資源大臣）

- **豪政府は国内経済発展に貢献してきたLNG輸出事業者を強力に支援していく。**
- LNGの国内需要にも応えながら、国外の重要なパートナーと連携し続けていく。

• ペーター・アルトマイヤー氏（ドイツ連邦経済エネルギー大臣）

- **ドイツが原子力や石炭火力から手を引く中で、国内一次エネルギー消費の1/4を占める天然ガスの重要性は増す。**
- 気候変動への対応と経済回復を同時に成し遂げるためには技術革新が必要であり、日本との連携が重要となる。

• マーク・メネゼス氏（米国エネルギー省次官）

- 米国は政府機関の横断的取組や他国との協力を進めており、中核に位置するのがAsia Edge。
- **JUSEP等の枠組みを使って、インド太平洋における安価かつ安定的なエネルギー供給を促進している。**
- **米国の潤沢なLNGの供給により、同盟国等はエネルギーを武力として扱う国家への依存から脱却することができる。**

• ロバート・ヒューイット氏（Deputy Director for Energy Security, 英国ビジネスエネルギー産業戦略省）

- 政府として脱炭素化を目指しているが、それは天然ガス使用の停止を意味するものではない。
- CCUSや水素の活用で、**エネルギー供給や経済性を確保しながら脱炭素化を進めていく。**

• ショーン・タッパー氏（Associate Deputy Minister, カナダ天然資源省）

- カナダではLNGカナダプロジェクトをはじめ、**クリーンかつグリーンなLNGの生産**を進めている。
- 大規模なエネルギー開発を通じて、特にアジアで高まるエネルギー需要に対応するには国際協力が不可欠。

• カトリ・シムソン氏（欧州委員会 委員）

- 安定性があり安価なLNGは、**欧州のガス供給における重要性を増していくだろう。**

LNG産消会議2020 各機関からのメッセージ⑤



• アレクサンドル・ノヴァク氏（ロシアエネルギー大臣）

- 天然ガスは再エネと並び、今後数十年のGHG排出量削減目標に寄与していく。
- 急速に拡大する**LNG市場の発展や未来を議論する国際プラットフォームの存在は不可欠である。**

• Zeljko Runje氏（Deputy Chairman of The Management Board, First Vice President for Oil, Gas, PJSC Rosneft Oil Company）

- 2030年にエネルギー需要は現在の2倍に拡大する見込みであり、新規LNGプロジェクトの立ち上げが必要。
- Rosneftの保有する石油・ガス資源は比類なく、**地理的に近接する日本企業との密接な連携を重視している。**

• Elena Burmistrova氏（Deputy Chairman of the Management Committee, PJSC Gazprom）

- 世界のエネルギー産業は大きな変化に直面している。**業界各社はこの好機を逃さず、世界のエネルギーバランスにおける天然ガスの地位を高めるべきだ。**
- 世界の合理的な脱炭素化戦略は、天然ガスのクリーン優位性に基づくべきである。

• Leonid Mikhelson氏（Chairman of the Management Board, Pao Novatek）

- 石炭に大きく依存する途上国では、経済成長を止めることなく環境影響を軽減するにはガスへ移行するほかない。
- しかし、ガス火力発電のCO2削減効果を軽視する一部の金融機関の姿勢はこれを阻害している。
- **今後数年で、環境意識の高い投資家にとってLNG産業への資金提供は選好されるものになるべきだ。**
- 他のエネルギー源に対する**価格競争力の維持はLNG生産者の最重要課題だ。**生産者と消費者双方の協力があってこそそれが実現でき、更にはエネルギーミックスにおける天然ガスの割合が高まると同時に環境影響も軽減できる。